

協働

VC ミーティング（クロームブックによる情報交換）

11月4日（火）、18日（火）の2回にわたり、町田市庁舎2階市民協働おうえんルームにてVCミーティングを行いました。今回は、クロームブックの中にあるグーグルレンズという機能を使うことにより、必要な文章を写真に撮ることで、キーボードで打ちこむことなく、その文章を文字に変換してしまうという驚きの操作を学び体験しました。皆さんの携帯電話にも搭載されている、OCR（光学文字認識）のAI技術です。文字を打つことなく写真で撮り、文章として変換してしまう機能は驚きでした。この機能を習得するために、何度も練習することで、参加した皆さんは自分のものにできたようです。機会があれば、地区を回って広めていきたい機能です。クロームブックは各校1台ですが、自分の携帯で操作できることで、いつでも練習でき、理解を深めることができます。



そして、今回の講師は、2地区の遠藤VCにお願いしました。遠藤VCは、クロームブックに



精通しており、前々から今回の内容を提案してくださっていました。文字入力が苦手な方でも、この方法ならクロームブックの操作に慣れ親しむ第一歩になるのではないかと思います。もちろん、学校支援センターからは、PCのエース阿部さんが一緒に内容を検討し、説明書も作成してくれました。参加してくださった皆さん、ぜひ地区内でも教え、広めてください。いつでもお手伝いします。

まちかど子どもギャラリー

～アートで地域がひとつに！～

11月17日（月）から12月19日（金）の期間で、今年も町田の子どもたちの作品の一部が、105か所の事業所や店舗で飾られます。町田市庁舎にも作品の一部が飾られています。詳しくは、「まちかど子どもギャラリー2025」のチラシをご覧ください。（写真・市庁舎1階の様子）



第2回中学校全体学校支援VCミーティングの様子



11月19日（水）に町田市庁舎10階会議室にて、第2回中学校VCミーティングを開催しました。初めに指導課管理係太田担当係長からボランティア予算の再配当状況についての説明がありました。学校支援センターからは、①東京都地域学校協働活動補助金に関わる各校の活動状況調査について、②放課後学習教室（地域未来塾）についての事例等、③第2回地区ミーティングの取り組み等の話がありました。各校からは、紙面で活動報告がありました。その後、天利GVCから、8

月22日に行われた「2025年度町田市地域未来塾講師研修・連絡協議会」について、「東京都の目的と期待」を基に、町田市の生徒の実態（令和6年度、全国学力・学習調査の結果調査の結果）から、国語・数学、学校・家庭生活についての報告がありました。続いて、当日参加された講師（ボランティア）の方たちのアンケート【講師をはじめたきっかけ、講師としての活動について、課題・懸念点等】内容についての説明がありました。

その後、2班に分かれグループワークを行いました。「地域未来塾・不登校支援の成果と課題」をテーマに、それぞれのグループで活発に情報交換を行いました。欠席校には、当日使用した資料を、交換便で送りましたのでご活用ください。

CSと地区ミーティング（文中、地区MTと表記） ※中学校VCMTは、毎年2回実施されています。

先日、中学校VCミーティングの中でこんな質問が出ました。「中学校と小学校では、活動が違うが、地区MTで一緒に集まる意義は何なのか」なるほど、活動の始まりを問い直すことは、その目的を理解することにつながり、大切なことだと思いました。「地区MT」の始まりは、2010～2019年まで実施されていた「地区VCMT」です。当時は、学校支援センターの統括コーディネーターが企画・運営。地区編成は、小・6地区、中・20校を1地区として、地区単位で実施していました。学校支援センターが取組に必要な人材の把握、確認をしながら、各校VCの活動整理と取組共有、課題解決が主な目的でした。しかし、VCの横のつながり、活動の広がりは見られたものの「**学校が主体となり、地域学校協働活動を推進していくことが課題**」となりました。その後、将来の町田市のCS導入に向けて、指導課と連携、段階的に①管理職以外から地域連携担当教員の位置づけ、②地域と連携した学校教育活動年間計画を全校が作成。③2020年度から地区MT実施に向け、10地区の新編成（1地区当たり中・2校、小・3～7校）がされ、2021年度、CSが全校導入、全地区に統括VCを配置、統括VCが中心となって管理職・地域連携担当教員、VC、地域支援団体が共に参加できる地区MTが、年2回実施されるようになりました。町田市教育プラン24-28の「地域とともに学ぶ力を高める」ため、特に「小、中連携したコミュニティ・スクールの取組の推進」は、学校と地域が一体となって、児童生徒の学びを推進するために特に充実が求められています。今年8月に小・中代表児童・生徒による教育フォーラムが実施されました。そこでは、小、中学校が相互の違いを認め合い、共通する願いを共に言語化することができていました。今後は、地区MTにおいても小・中学校の児童・生徒の願いが反映されるチームとしての「熟議」の工夫を大切にしたいと考えています。